

Corporate Social Responsibility (CSR)

タケダは「いのち」に携わる企業として、
自らの事業活動が社会に及ぼす
さまざまな影響を事前に認識したうえで、
事業プロセス全体で価値創造・保全に努めるとともに、
企業市民としての活動にも取り組んでいます。

- 45 タケダのCSR活動
- 50 人権
- 52 労働
- 54 環境
- 56 腐敗防止／公正な事業慣行／消費者課題
- 58 企業市民活動



タケダのCSR活動

企業は社会の一部であるという関係性を認識し、ホリスティック(包括的)な視点で企業価値の創造のみならず、保全活動にも取り組みます。

CSRの基本的な考え方

タケダは、患者さん(Patient)を中心に考え、優れた医薬品を創出する「医薬事業」がCSRの根幹であると考えています。その上で、「事業プロセス」全体の健全性の維持・向上に努め、また、「企業市民」として、社会の持続可能性を高める活動に関わることで、社会との深い信頼関係(Trust)を築いてタケダの評価(Reputation)を高め、さらなる「医薬事業」(Business)の成長へとつなげる、CSRによる価値創造・保全モデルを実践しています。具体的な活動の推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則などの国際的な規範や、2015年9月に発効予定の「持続可能な開発目標」(SDGs)案などの国際的な長期目標を参照し、PDCAサイクルを回しています。

SDGs

2015年に終了するミレニアム開発目標(MDGs)に続く「ポスト2015年開発アジェンダ」の策定に関連して検討されている、持続可能な開発に向けた国際目標

参照

P.18 CSR戦略

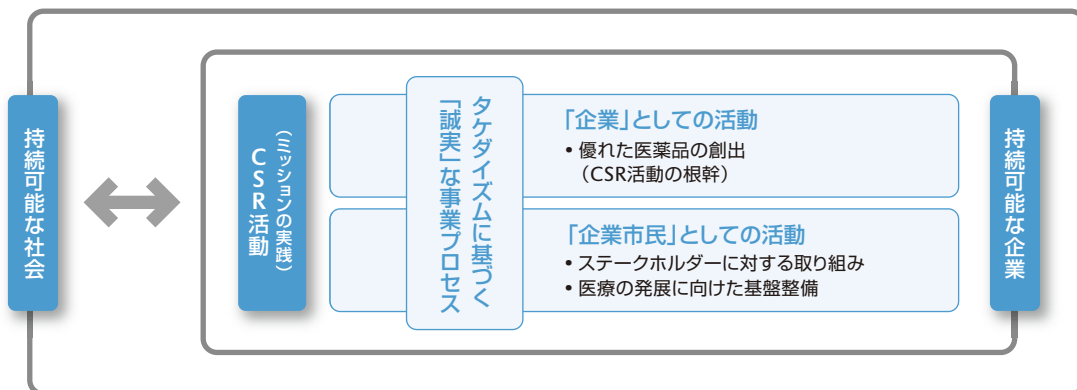
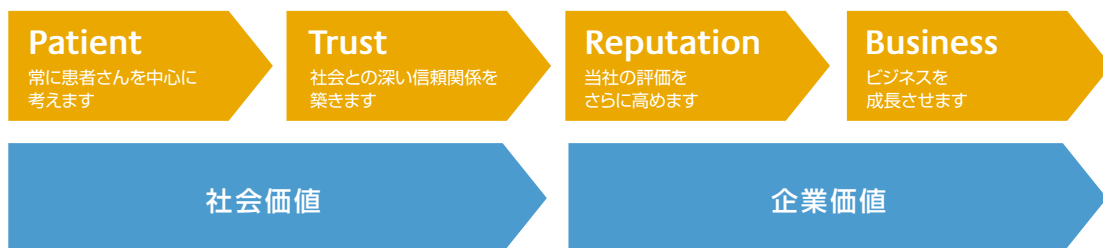
P.58 企業市民活動



外来診療所に並ぶ患者さん(タンザニア)
タケダ・イニシアティブ*のプロジェクトサイトより

*「世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)」を通じて、アフリカの保健医療人材の育成を2010年から10年間にわたって支援する寄付プログラム。

CSRを通じた価値の創造と保全



CSRガバナンスと戦略的エンゲージメント

CSRガバナンス

意思決定: CSRに関する重要案件については、ビジネス案件と同様にビジネス・レビュー・コミッティーや取締役会で取り扱われます。

デューディリジェンス: 事業活動に起因する社会環境影響については、潜在的な影響を含めて事前に特定し適切に対処することで企業価値の保全を図っています。

実践活動: エンゲージメント活動を通じて特定したマテリアルな課題は、ISO26000などを参考に、品質、人権、労働、環境、購買、サプライチェーン管理、コンプライアンス、コミュニティなどに分類・案件化され、関連部署が対応します。

開示活動: コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ(CCPA)内に設置されているCSR専門組織では、国連GCアドバンストレベル基準、GRI第4版(G4)、IIRC統合報告フレームワークなどを参照しながら開示活動を進めています。

国連GC

国連グローバルコンパクト
企業が責任ある企業市民として、自主的に行動することを促すための世界的な枠組み。参加する企業・団体は、10原則の支持、実践が求められます。

BSR

CSRに関する国際的な企業会員組織

CSRアジア

アジア・太平洋地域における最大級のネットワークを持つCSRシンクタンク

IFPMA

国際製薬団体連合会

ATM Index

Access to Medicine財団による
医薬品アクセス貢献度ランキング

デューディリジェンス

社会的責任という背景のなかでのデューディリジェンスとは、組織の決定および活動が及ぼすさまざまなマイナス影響を特定し、回避・緩和するプロセスを意味します。

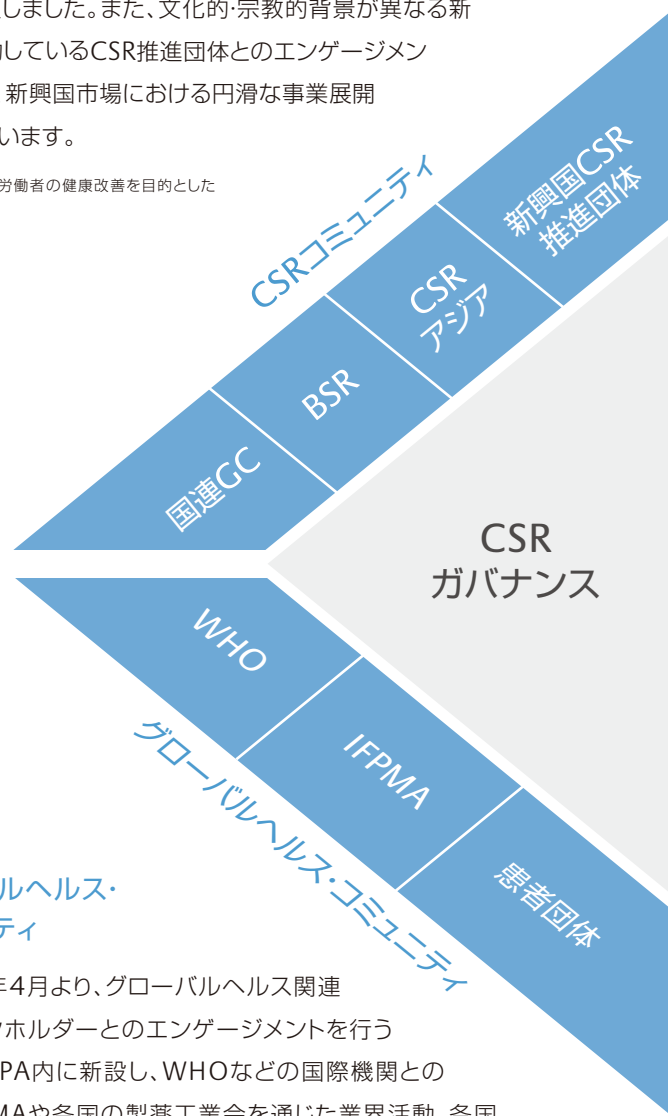
ステークホルダー・エンゲージメント

ステークホルダー・エンゲージメントとは、ステークホルダーの関心事項を理解し、企業活動や意思決定に反映する取り組みを意味します。

CSRコミュニティ

国連GCの「LEADプログラム」に発足時から参加し、「SDGs」や「長期ゴール設定」に関する研究会に参画しています。また、2015年には、BSRのHERhealth*やCSRアジアに加盟しました。また、文化的・宗教的背景が異なる新興国で活動しているCSR推進団体とのエンゲージメントを強化し、新興国市場における円滑な事業展開を支援しています。

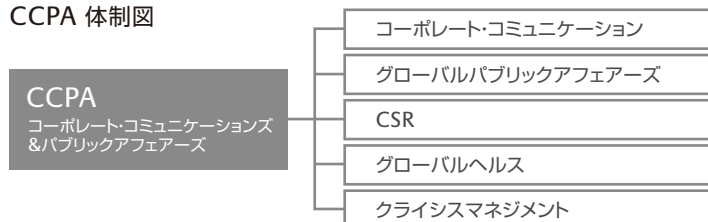
*途上国の女性労働者の健康改善を目的としたプロジェクト



グローバルヘルス・コミュニティ

2015年4月より、グローバルヘルス関連のステークホルダーとのエンゲージメントを行う組織をCCPA内に新設し、WHOなどの国際機関との連携、IFPMAや各国の製薬工業会を通じた業界活動、各国における患者アドボカシー活動を強化しています。

CCPA 体制図



ESG(環境・社会・ガバナンス)等評価機関

Dow Jones Sustainability IndexやFTSE4GoodをはじめとするSRI(社会的責任投資)インデックスからの調査を通じて、CSRのトレンドや投資家、NGOが製薬企業に期待している事項を把握しています。保健医療アクセス問題への対応については、シンガポールにある新興国市場のマーケティング部門に専門部署を設け、Access to Medicine 財団に代表される、保健医療アクセスを評価する機関からの調査に対応します。

戦略的エンゲージメント

タケダは、多様なコミュニティやステークホルダーとの対話を通じて、CSRに関わる長期トレンドや現在および将来におけるタケダに対する期待を把握するように努め、全体像を認識したうえで、CSR活動を実践しています。

SRI(社会的責任投資)インデックスへの組み入れ状況 (2015年6月末現在)

- Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index (米国:S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社)
- FTSE4Good (英国:FTSEインターナショナル社)
- モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI) (日本:モーニングスター社)

MEMBER OF

Dow Jones Sustainability Indices

In Collaboration with RobecoSAM



FTSE4Good



MS-SRI

戦略的
エンゲージメント

ステークホルダーとの対話

ステークホルダーとの対話

開示した情報を適切に発信し、AA1000の基準を活用して、対話の質を高めます。また、相談や苦情を受け付ける窓口を設置して、適切に対応することで、改善活動につなげます。

タケダのステークホルダー	対話方法	所管部門
患者さん・医療関係者の皆さん	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議への参加 医薬情報活動 くすり相談室、ホームページなどを通じた情報提供 健康講座などの開催 広告を通じた情報提供 	CCPA、くすり相談室など
株主・投資家の皆さん	<ul style="list-style-type: none"> アニュアルレポート、ホームページなどを通じた情報提供 株主総会、投資家説明会 IR活動 社会責任投資家からのCSRアンケート対応 	IR、CCPAなど
社会	<ul style="list-style-type: none"> NGO/NPOと協働したプログラムの実施 経済団体、業界団体を通じた諸活動 社会人・学生を対象にしたCSR講演 意見交換会(ダイアログ) ボランティア活動 	CCPAなど
環境	<ul style="list-style-type: none"> 工場・研究所周辺の地域住民の皆さんとの対話 アニュアルレポート、ホームページなどを通じた情報公開 	各工場・研究所の担当部門など
取引先	<ul style="list-style-type: none"> タケダグローバル行動規程やタケダサプライヤー行動規程に基づいた誠実な購買活動の実践 取引先アンケート調査の実施 意見交換会、説明会、勉強会 お問い合わせ窓口 	各組織の購買担当部門など
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 従業員グローバルアンケート調査 タケダグローバル行動規程 Voice of Takeda System (VTS) 労使協議 カウンセリング タケダイズム実践月間の実施 能力開発に資する多様な研修 	人事関連部門、法務部門など







AA1000

英国アカウンタビリティ社が発行した、説明責任に関するガイドライン。

ステークホルダーとは、企業の事業活動により影響を受ける、または企業の活動に影響を与える、すべての関係者(存在)を意味します。

ISO26000の中核主題フレームワークを活用して活動を推進し、
国連グローバル・コンパクトの開示基準に即して、取り組み内容をご説明します。

CSR活動の目標と実績

国連GCアドバンスドレベル基準	ISO26000中核主題	2014年度の目標	2014年度の実績
基準1~2/19~21	組織統治	CSRに関する従業員の認知・意識の向上(継続)	社内報にCSRに関する解説ページを4回掲載したほか、グローバルイントラネットに、16本のCSR記事を掲載した。
 人権 基準3~5	人権	ステークホルダー・エンゲージメントの継続実施	「タケダ・Plan保健医療アクセスプログラム」について、タケダ、協働したNGO「プラン・ジャパン」、CSRコンサルティング「CSRアジア」との対談を実施し、小冊子にまとめた。
		研究・開発・購買・販売など各業務プロセスにおける人権に関する社内規則の遵守(継続)	BSRを招いて、人権に関する講習会を、社内関係部門に対して実施した。
 労働 基準6~8	労働慣行	ダイバーシティの推進の強化(継続)	各国の状況調査を実施(グローバル)したほか、女性社員育成プログラムおよびダイバーシティに関する啓発活動の継続、ならびに女性幹部社員のネットワークミーティングへの支援を行った。(日本)
		グローバルリーダーの早期育成促進(継続)	グローバル共通のコンピテンシーモデルとタレントレビュープロセスにより、グローバルリーダー候補人材の発掘を行うとともに、それらの候補人材に対するグローバル共通の育成プログラムを開始した。
		ワーク・ライフ・バランスの推進(継続)	時間外労働時間の削減および、年次有給休暇取得向上に向けた取り組みを行い、年間総実労働時間1,800時間台を達成した。(日本)
 環境 基準9~11	環境	武田薬品グループ環境自主行動計画の推進(継続)	各グループ会社、各部門において、それぞれが設定した目標に基づき、着実に計画を実行した。
		グローバルEHSガイドラインおよびチェックリストに基づいた内部監査の実行	チェックリストに基づき、グローバル各部門に対する内部監査を着実に実施した。
		環境・防災管理体制の強化充実(継続)	各グループ会社、各部門において、それぞれが設定した目標に基づき、着実に計画を実行した。
		社員全員参加の省エネルギー活動の推進(継続)	各部門が設定した省エネルギー活動目標を達成した。
		環境・防災意識の高揚と教育訓練の充実(継続)	環境防災訓練を計画通り実施したほか、イントラネットを通じた従業員への啓発活動を実施した。
 腐敗防止 基準12~14	公正な事業慣行	タケダ・グローバル行動規準およびタケダ贈収賄禁止グローバルポリシーの浸透(継続)	従業員に対しタケダ・グローバル行動規準の浸透活動を行い、第三者に対する贈収賄防止デュー・ディリジェンスに関するグローバルポリシーの実施を通じて、タケダ贈収賄禁止グローバルポリシーを強化した。
		新規サプライヤーに対するCSRアンケートの実施(予定)	15,000を超えるサプライヤーに対して、CSRに関するリスクアセスメントを完了した。
		グリーン購買の推進(継続)	着実にグリーン購買を実施した。
 消費者課題 基準12~14	消費者課題	数値指標も取り入れた偽造医薬品対策3ヵ年計画の有効性の評価の実施	2014年度、タケダの取り組みにより9,933件の違法なオンライン薬局を閉鎖させた。このように3ヵ年計画は計画を上回る成果をあげることができた。
		ホームページや広告を活用した、患者さんへの疾患啓発活動の実施(継続)	医療関係者向けの広告資材について現在の規制に即した情報提供を行なうため、社内のチェック体制を見直した。
		治療や予防に関する幅広い情報提供(継続)	ホームページやセミナーなど、さまざまな媒体を通じて、治療や予防に関する情報提供を実施した。
 企業市民活動 基準15~18	コミュニティ参画および発展	東日本大震災による被災地への継続的な支援(継続)	2020年までの長期的なスキームのもと、着実に支援を実施した。
		保健医療分野における企業市民活動の推進(継続)	「タケダ・イニシアティブ」や「IDEELプログラム」などの保健医療関連プログラムを着実に実施した。
		医療の発展に資する幅広い分野への助成(継続)	途上国の感染症に対する新薬創出の促進を目的とした「グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)」への継続的な資金提供を実施した。
		NGO/NPOとのパートナーシップ(継続)	ワールドCSRコンGRESS(インド)などの国際会議に参加し、アジアにおけるNPOとの関係を強化した。
		企業市民活動に関する基本ポリシーの周知活動の実施(継続)	患者さんに対するグローバルな従業員の企業市民活動を取りまとめたフォトブックを作成し、全従業員間で情報を共有した。
		グローバル寄付ガイドラインの周知活動の実施(継続)	ガバナンス体制の変更を踏まえて、寄付関連ガイドラインのアップデートを実施した。
		国内従業員に対するボランティア活動機会の提供(継続)	イントラネットにおけるボランティア情報ページを全面的に改訂した。

評価：○目標を達成した △一部、目標に達しなかった ×目標に達しなかった

評価	2015年度の目標	アニュアルレポート掲載ページ	
○	CSRに関する従業員の認知・意識の向上(継続)	→ P.45 タケダのCSR活動	→ P.18 CSR戦略 → P.61 コーポレート・ガバナンス
○	ステークホルダー・エンゲージメントの継続実施		
○	研究・開発・購買・販売など各業務プロセスにおける人権に関する社内規則の遵守(継続)	→ P.50 人権	→ P.52 労働 → P.63 コンプライアンス
○	ダイバーシティの推進の強化(継続)	→ P.52 グローバル・タレント・マネジメント ダイバーシティの推進 ベスト・イン・クラスに関するグローバル調査	
○	グローバルリーダーの早期育成促進(継続)		
○	ワーク・ライフ・バランスの推進(継続)		
○	武田薬品グループ環境自主行動計画の推進(継続)	→ P.54 環境マネジメント 環境パフォーマンス 2020年度に向けて自主行動計画を制定	
○	グローバルEHSガイドラインおよびチェックリストに基づいた内部監査の実行		
○	環境・防災管理体制の強化充実(継続)		
○	社員全員参加の省エネルギー活動の推進(継続)		
○	環境・防災意識の高揚と教育訓練の充実(継続)		
○	生物多様性への取り組みの推進(継続)		
○	コンプライアンスモニタリング活動の改善	→ P.56 タケダ・グローバル行動基準 CSRに配慮したグローバル購買 公正なプロモーション	→ P.29 知的財産 → P.63 コンプライアンス
○	タケダサプライヤー行動規準の策定		
○	サプライヤーのリスク管理およびCSRの取り組みに関する評価と改善を目的とした、新たなグローバルプロセスの実施		
○	違法オンライン薬局の監視と必要に応じた法的措置の継続	→ P.56 グローバルな偽造医薬品対策	→ P.34 生産供給体制 → P.35 品質保証体制 → P.36 マーケティング
△	違法な医薬品の販売の撲滅に向けた各国の警察機関、規制当局への協力		
○	サプライチェーン安全性確保		
○	医療関係者向け広告資材作製プロセスの改善と社内での徹底		
○	ホームページを通じた当社製品服用の患者さんに対する適切な情報伝達		
○	治療や予防に関する幅広い情報提供(継続)		
○	東日本大震災による被災地への継続的な支援(継続)	→ P.58 グローバルな保健医療課題 各事業エリアの保健医療課題 東日本大震災による被災地への支援 HERhealth	→ P.17 保健医療アクセス → P.28 ワクチン事業
○	保健医療分野における企業市民活動の推進(継続)		
○	医療の発展に資する幅広い分野への助成(継続)		
○	NGO/NPOとのパートナーシップ(継続)		
○	企業市民活動に関する基本ポリシーの周知活動の実施(継続)		
○	グローバル寄付ガイドラインの周知活動の実施(継続)		
○	国内従業員に対するボランティア活動機会の提供(継続)		

活動の詳細は、「CSRデータブック」に掲載しています。<http://www.takeda.co.jp/csr/reports/>